

平成 24 年度岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程【9月募集】入学試験問題

講 座	言語情報論
専門科目 2	日本語試験

問題 1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

問 1 下線部 (ア) (イ) (ウ) (エ) を漢字に直しなさい。

問 2 波線部 (オ) (カ) (キ) の読み方を書きなさい。

問 3 日本語の書字方向の特殊性について、本文中の説明を踏まえて述べなさい。

問 4 「牛耕式」が日本語でおこなわれたことがないのはなぜか、考えられる理由について述べなさい。

問 5 下線部 (1) について、音声言語を文字言語に写す上での限界と、それを克服する手段について、本文中の説明を踏まえて説明しなさい。

注 1 : 次の文章とは、屋名池誠『横書き登場』(岩波新書、2003 年) 2~4 頁である。

問題2 次のア～キの7つの文について、あとの問いに答えなさい。

- ア 太郎が椅子を作る。
- イ 私は足が痛い。
- ウ 太郎は教室にいる。
- エ あの山には蛇がいる。
- オ 花子は親切だ。
- カ 日本の文化は欧米の文化とは異なる。
- キ 花子は日本人だ。

問1 文の内容となる事象には、「一時的なもの」と「恒常的なもの」がある。上の文の中で、一時的な事象であるものをすべて選び、記号で答えなさい。

問2 上の文の中で、述語の形を「～ている」に変えることによって進行中を表すことができるものをすべて選び、記号で答えなさい。

問3 上の文の中で、述語になっている単語の品詞が動詞でないものをすべて選び、記号で答えなさい。

問4 上の文の中で、程度を表す副詞をそえることができるものをすべて選び、記号で答えなさい。

問5 キの文は、述語を過去形にしても、過去の意味にはならない。どのような意味になるかを説明しなさい。

問6 存在動詞「いる」を述語にもつ文には、ウ、エのようなもののほかに、「太郎には妹がいる」というようなものがある。これと、ウ、エとの違いを説明しなさい。

問7 イの文の述語を「痛がっている」という形に変えることはできるかどうかを答え、その理由を説明しなさい。

問8 ア～キの文を丁寧体に変えるとどうなるか。1つずつ答えなさい。

問題3 日本語の特徴として次のようなことが指摘されることがある。それぞれについて、あなたの考えを述べなさい。

- 1 日本語は非論理的な言語である。
- 2 日本語には主語がない。
- 3 日本語は話し手の主観が言語表現化される傾向が強い。

以上